



会長就任挨拶



日本中小企業学会会長 港 徹雄

この度、日本中小企業学会第8期会長に選出されその責任の重大さを痛感いたしております。浅学菲才の身ではありますかが会員各位のご協力を得てこの大任を全ういたす所存でありますのでご支援賜りますようお願い申し上げます。

さて、今日、日本経済は戦後最大の経済危機の状況にあり、とりわけ、中小企業はその存立基盤が大きく揺らいでおります。日本経済を再生させるには、日本産業の多数派でありその発展基盤を担ってきた中小企業の復権が不可欠であります。私たち中小企業研究者はマスコミを賑わす巨大企業の経営危機の陰に隠れがちな中小企業の深刻な諸問題を明らかにし、日本経済再生につながる中小企業復権の道を示す社会的責務の一端を担っております。

しかしながら、学術組織としての本会は単に現象面を追うのではなく、中小企業存立の本質に迫る新たな理論的パラダイム構築を目指すべきであります。そのためには、まず、より多様な学問領域を中小企業研究に統合するため学際協力の促進が課題となります。

初代会長の山中篤太郎先生は「中小企業論という独立した学問はない」と述べられたように中小企業研究はすぐれて応用的分野であり、これまで経済学や経営学等の基礎のうえに構築されてきました。しかし、今後は中小企業の実証研究から得られた知見をこれらの学問分野にフィードバックさせ双方向で研究水準の向上に貢献すべき段階を迎えようとしています。

また、日本の中小企業研究はその長期にわたる豊富な研究実績からして、国際的に貢献しうる数少ない社会科学領域の一つでもあり、グローバル化・同時化する今日、中小企業研究の国際交流の重要性が一層高まっています。こうした観点から、海外からの研究者招聘や中小企業研究論文の英語による発表等の国際交流活動を活発化する必要があります。

さらに、デジタル情報が氾濫する時代にあって、会員相互のフェイス・ツ・フェイスの情報交換と切磋琢磨の重要性がますます強まっています。こうした機会をより多く提供するため部会活動の活発化は緊要の課題であります。

こうした諸課題は一朝一夕に実現することは困難ではありますが、日本中小企業学会の伝統である会員一人一人の積極的な取り組みと、強い協働の精神に支えられて着実に前進してまいりたいと願っております。